

2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年11月8日

東

上場会社名 デンカ株式会社 上場取引所
 コード番号 4061 URL http://www.denka.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)山本 学
 問合せ先責任者 (役職名)IR室長 (氏名)大町 徹夫 (TEL) 03(5290)5532
 四半期報告書提出予定日 2019年11月11日 配当支払開始予定日 2019年12月2日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有(証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	191,953	△3.2	15,348	5.1	14,533	△2.9	10,852	△4.7
2019年3月期第2四半期	198,348	5.6	14,600	2.0	14,968	△3.1	11,390	△7.2

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期7,674百万円(△26.9%) 2019年3月期第2四半期10,493百万円(△22.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	125.25	—
2019年3月期第2四半期	129.98	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	482,210	250,743	51.3
2019年3月期	483,827	250,481	51.0

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期247,209百万円 2019年3月期 246,861百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	60.00	—	60.00	120.00
2020年3月期	—	60.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	65.00	125.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	400,000	△3.2	35,000	2.3	32,000	△2.5	24,000	△4.2	277.62

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、(添付資料) 9 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期2Q	88,555,840株	2019年3月期	88,555,840株
2020年3月期2Q	2,305,666株	2019年3月期	1,607,082株
2020年3月期2Q	86,647,969株	2019年3月期2Q	87,634,135株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュフロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動あった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10
3. 補足情報	12
2019年度 第2四半期決算概要	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、個人消費は緩やかに回復しましたが、輸出や生産に弱さがみられるなど、力強さに欠ける動きとなりました。また、世界経済は、全体としては緩やかな回復基調が続きましたが、米中貿易摩擦や英国のEU離脱問題の長期化により、先行きに対する懸念が一層高まりました。

このような経済環境のもと、当社グループは、企業理念“The Denka Value”を実現すべく、経営計画「Denka Value-Up」の3つの成長ビジョン「スペシャリティーの融合体」「持続的成長」「健全な成長」にもとづき、2つの成長戦略である「事業ポートフォリオの変革」と「革新的プロセスの導入」を推進し、業容の拡大と収益の確保に注力いたしました。

当第2四半期連結累計期間の業績は、車両電動化やヘルスケア関連分野での販売数量増加や、採算是正を目的とした販売価格の改定が進んだ一方で、一部製品で原材料価格の下落に応じた販売価格の見直しを行ったことや需要減による販売数量の減少があり、売上高は1,919億53百万円と前年同期に比べ63億94百万円(3.2%)の減収となりました。利益面では、営業利益は153億48百万円(前年同期比7億47百万円増、5.1%増益)、経常利益は145億33百万円(前年同期比4億34百万円減、2.9%減益)、親会社株主に帰属する四半期純利益は108億52百万円(前年同期比5億38百万円減、4.7%減益)となりました。

<エラストマー・機能樹脂部門>

当部門の売上高は786億72百万円と前年同期に比べ103億72百万円(11.6%)の減収となりました。

スチレンモノマーやデンカシンガポール社のポリスチレン樹脂およびMS樹脂の販売は堅調に推移しましたが、原材料価格の下落に応じた販売価格の見直しを行ったことから減収となりました。また、クロロプレンゴムの販売数量は前年を下回りました。

<インフラ・ソーシャルソリューション部門>

当部門の売上高は269億48百万円と前年同期に比べ8億98百万円(3.4%)の増収となりました。

特殊混和材は出荷増および価格改定により増収となり、農業・土木用途向けのコルゲート管は概ね堅調でしたが、セメントや耐火物・鉄鋼用材料の販売は前年を下回りました。

<電子・先端プロダクツ部門>

当部門の売上高は335億36百万円と前年同期に比べ5億86百万円(1.8%)の増収となりました。

球状アルミナや高純度導電性カーボンブラックなどの車両電動化関連製品の販売は好調に推移し、電子回路基板および高信頼性放熱プレート“アルシンク”、LED用サイアロン蛍光体“アロンブライト”の販売は堅調に推移しました。一方、電子部品・半導体関連分野向け機能フィルムや球状溶融シリカフィラーの販売は前年を下回りました。

<生活・環境プロダクツ部門>

当部門の売上高は185億54百万円と前年同期に比べ9億98百万円(5.1%)の減収となりました。

プラスチック雨どいおよび工業用テープの販売は概ね前年同期並となりましたが、合織かつら用原糸“トヨカロン”や食品包材用シートおよびデンカポリマー株式会社の加工品の販売は前年を下回りました。

<ライフイノベーション部門>

当部門の売上高は149億98百万円と前年同期に比べ25億73百万円(20.7%)の増収となりました。

デンカ生研株式会社の試薬が国内、輸出とも好調に推移したことに加え、インフルエンザワクチンの出荷が早まったことから増収となりました。

<その他部門>

当部門の売上高は192億43百万円と前年同期に比べ9億18百万円(5.0%)の増収となりました。

株式会社アクロス商事等の商社は取扱量が前年を上回りました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ16億17百万円減少の4,822億10百万円となりました。流動資産は、売上債権の減少などにより前連結会計年度末に比べ58億86百万円減少の1,848億43百万円となりました。固定資産は、有形固定資産の増加などにより前連結会計年度末に比べ42億69百万円増加の2,973億66百万円となりました。

負債は、仕入債務の減少などにより前連結会計年度末に比べ18億78百万円減少の2,314億67百万円となりました。非支配株主持分を含めた純資産は前連結会計年度末に比べ2億61百万円増加して2,507億43百万円となりました。以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の51.0%から51.3%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

(業績予想の修正)

最近の業績動向を踏まえ、2019年5月13日に公表いたしました2020年3月期通期連結業績予想を以下のとおり修正いたします。

2020年3月期 通期連結業績予想(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	415,000	38,000	36,000	27,000	310.53
今回修正予想 (B)	400,000	35,000	32,000	24,000	277.62
増減額 (B-A)	△15,000	△3,000	△4,000	△3,000	—
増減率 (%)	△3.6%	△7.9%	△11.1%	△11.1%	—
(ご参考) 前期連結実績 (2019年3月期)	413,128	34,228	32,811	25,046	286.18

修正の理由

米中貿易摩擦の長期化などの影響で厳しい外部環境が続いており、エラストマー・機能樹脂製品などの販売が当初の想定を下回る見通しであることから、前回公表値(2019年5月13日)を見直しいたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,902	13,180
受取手形及び売掛金	95,780	90,161
商品及び製品	47,455	50,764
仕掛品	4,389	3,647
原材料及び貯蔵品	19,911	19,471
その他	9,802	8,189
貸倒引当金	△511	△570
流動資産合計	190,730	184,843
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	62,393	61,449
機械装置及び運搬具（純額）	71,155	68,719
工具、器具及び備品（純額）	3,820	3,776
土地	63,366	63,380
リース資産（純額）	307	1,780
建設仮勘定	17,634	24,967
有形固定資産合計	218,677	224,074
無形固定資産		
のれん	8,312	7,776
特許権	250	508
ソフトウェア	978	980
その他	2,874	2,738
無形固定資産合計	12,415	12,004
投資その他の資産		
投資有価証券	55,028	54,389
長期貸付金	236	217
繰延税金資産	2,736	2,914
その他	4,122	3,888
貸倒引当金	△118	△122
投資その他の資産合計	62,004	61,287
固定資産合計	293,097	297,366
資産合計	483,827	482,210

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	52,924	44,516
短期借入金	43,101	43,337
コマーシャル・ペーパー	2,000	18,000
1年内返済予定の長期借入金	5,062	10,031
1年内償還予定の社債	5,000	5,000
未払法人税等	3,010	3,069
未払消費税等	487	867
賞与引当金	3,122	3,422
その他	39,338	33,509
流動負債合計	154,047	161,754
固定負債		
社債	22,000	22,000
長期借入金	34,969	24,954
繰延税金負債	4,961	4,397
再評価に係る繰延税金負債	8,403	8,403
退職給付に係る負債	7,269	6,710
株式給付引当金	44	47
その他	1,650	3,198
固定負債合計	79,298	69,712
負債合計	233,346	231,467
純資産の部		
株主資本		
資本金	36,998	36,998
資本剰余金	49,353	49,355
利益剰余金	144,638	150,183
自己株式	△5,492	△7,589
株主資本合計	225,498	228,947
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15,182	13,468
繰延ヘッジ損益	△345	△486
土地再評価差額金	10,260	10,260
為替換算調整勘定	△120	△1,603
退職給付に係る調整累計額	△3,614	△3,376
その他の包括利益累計額合計	21,362	18,261
非支配株主持分	3,620	3,533
純資産合計	250,481	250,743
負債純資産合計	483,827	482,210

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	198,348	191,953
売上原価	149,693	143,023
売上総利益	48,655	48,930
販売費及び一般管理費	34,054	33,582
営業利益	14,600	15,348
営業外収益		
受取利息	40	41
受取配当金	1,728	976
持分法による投資利益	466	347
為替差益	649	-
その他	259	324
営業外収益合計	3,143	1,690
営業外費用		
支払利息	354	447
固定資産処分損	880	556
操業休止等経費	705	317
為替差損	-	521
その他	835	661
営業外費用合計	2,776	2,504
経常利益	14,968	14,533
特別損失		
災害による損失	620	-
事業整理損	-	596
特別損失合計	620	596
税金等調整前四半期純利益	14,348	13,937
法人税、住民税及び事業税	3,015	3,099
四半期純利益	11,332	10,838
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△58	△13
親会社株主に帰属する四半期純利益	11,390	10,852

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	11,332	10,838
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	223	△1,633
為替換算調整勘定	△1,365	△1,538
退職給付に係る調整額	198	237
持分法適用会社に対する持分相当額	105	△229
その他の包括利益合計	△839	△3,164
四半期包括利益	10,493	7,674
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,742	7,751
非支配株主に係る四半期包括利益	△249	△77

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	14,348	13,937
減価償却費	11,089	10,768
のれん償却額	257	259
賞与引当金の増減額(△は減少)	192	306
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△373	△216
貸倒引当金の増減額(△は減少)	17	63
受取利息及び受取配当金	△1,768	△1,017
支払利息	354	447
持分法による投資損益(△は益)	△466	△347
固定資産除売却損益(△は益)	287	100
事業整理損	-	596
売上債権の増減額(△は増加)	△2,493	5,113
たな卸資産の増減額(△は増加)	△6,192	△2,780
仕入債務の増減額(△は減少)	△3,977	△7,802
その他	△3,348	△467
小計	7,926	18,961
利息及び配当金の受取額	2,581	2,057
利息の支払額	△351	△445
法人税等の支払額	△6,163	△3,186
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,994	17,385
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△13,688	△19,139
有形固定資産の売却による収入	51	2
無形固定資産の取得による支出	△44	△503
投資有価証券の取得による支出	△30	△2,727
子会社株式の取得による支出	△91	-
その他	282	59
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,520	△22,308
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	12,896	16,583
長期借入れによる収入	489	-
長期借入金の返済による支出	△34	△5,034
社債の発行による収入	15,000	-
社債の償還による支出	△15,000	-
自己株式の取得による支出	△6	△2,104
配当金の支払額	△4,822	△5,219
非支配株主への配当金の支払額	△32	△21
その他	-	7
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,490	4,211
現金及び現金同等物に係る換算差額	△224	△217
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,260	△928
現金及び現金同等物の期首残高	14,101	13,889
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	1,964	209
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,805	13,170

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

国際財務報告基準を適用している子会社は、第1四半期連結会計期間より、国際財務報告基準第16号「リース」(以下「IFRS第16号」という。)を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上することとしました。IFRS第16号の適用については、経過的な取扱いに従っており、会計方針の変更による累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に計上しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の有形固定資産の「リース資産(純額)」が1,456百万円増加し、流動負債の「その他」が214百万円及び固定負債の「その他」が1,533百万円増加しております。当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。また、利益剰余金の当期首残高は306百万円減少しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 事業 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	エラス トマ ー・機 能樹脂	インフ ラ・ソ ーシャ ルソリ ューシ ョン	電子・ 先端プ ロダク ツ	生活・ 環境プ ロダク ツ	ライフ イノベ ーショ ン	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	89,045	26,050	32,949	19,553	12,424	180,023	18,325	198,348	—	198,348
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	0	26	—	—	—	26	3,080	3,106	(3,106)	—
計	89,045	26,076	32,949	19,553	12,424	180,049	21,405	201,455	(3,106)	198,348
セグメント利益 又は損失(△)	7,433	△132	5,894	228	457	13,881	649	14,531	69	14,600

(注) 1. 「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プラントエンジニアリング事業、商社事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額69百万円は、セグメント間取引消去によるものです。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 地域ごとの売上高に関する情報

(単位：百万円)

	日本	海外			合計
		アジア	その他	計	
売上高	112,158	56,525	29,664	86,189	198,348
連結売上高に占める割合 (%)	56.5	28.5	15.0	43.5	100.0

(注) 売上高は顧客の所在地を基盤とし、国又は地域に分類しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 事業 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	エラス トマ ー・機 能樹脂	インフ ラ・ソ ーシャ ルソリ ューシ ョン	電子・ 先端プ ロダク ツ	生活・ 環境プ ロダク ツ	ライフ イノー ベーシ ョン	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	78,672	26,948	33,536	18,554	14,998	172,710	19,243	191,953	—	191,953
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	98	26	—	—	—	125	3,513	3,638	(3,638)	—
計	78,771	26,975	33,536	18,554	14,998	172,835	22,756	195,592	(3,638)	191,953
セグメント利益 又は損失(△)	6,851	267	5,775	△213	2,499	15,181	239	15,420	(72)	15,348

(注) 1. 「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プラントエンジニアリング事業、商社事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△72百万円は、セグメント間取引消去によるものです。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 地域ごとの売上高に関する情報

(単位：百万円)

	日本	海外			合計
		アジア	その他	計	
売上高	110,715	53,716	27,521	81,238	191,953
連結売上高に占める割合 (%)	57.7	28.0	14.3	42.3	100.0

(注) 売上高は顧客の所在地を基盤とし、国又は地域に分類しております。

2019年度 第2四半期決算概要

2019年11月8日

デンカ株式会社

1. 業績

(単位:億円)

	2019年度 第2四半期実績 (4-9月)	2018年度 第2四半期実績 (4-9月)	増 減
売 上 高	1,920	1,983	△ 64
営 業 利 益	153	146	7
経 常 利 益	145	150	△ 4
親会社株主に帰属する当期純利益	109	114	△ 5

	2019年 通期予想 (4-3月)	2018年 通期実績 (4-3月)
	4,000	4,131
	350	342
	320	328
	240	250

2. 総括(前年同期比)

・当社グループは、企業理念“The Denka Value”を実現すべく、昨年度より5か年の新経営計画「Denka Value-Up」をスタートしました。その3つの成長ビジョン「スペシャリティーの融合体」「持続的成長」「健全な成長」に基づき、2つの成長戦略「事業ポートフォリオの変革」と「革新的プロセスの導入」を推進し、業容の拡大と収益向上に注力しております。

・当第2四半期は、球状アルミナ、アセチレンブラック等車両電動化関連製品の販売が好調に推移し、デンカ生研株式会社の検査試薬やインフルエンザワクチンの販売も昨年を上回りました。その一方で、原材料価格下落に応じたスチレン系製品の販売価格の改定に加え、クロロブレンゴムや半導体関連製品(高機能フィルム・球状溶融シリカファイバー等)の販売数量が減少しました。このため、売上高は前年同期に比べ64億円減収の1,920億円(3.2%減)となりました。

利益面では、営業利益は前年同期比7億円増益の153億円(5.1%増)となりましたが、経常利益は145億円(前年同期比2.9%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は109億円(前年同期比4.7%減)と、それぞれ減益となりました。

・第3四半期以降は、アセチレンブラックや球状アルミナなど車両電動化関連製品は好調な販売が続く見通しですが、一方で、期初予想では第3四半期から回復すると見ていた半導体分野の需要回復が年明け以降となり、また、クロロブレンゴムの販売も低調な状況が続くと予想しております。このため、通期予想営業利益を、期初予想の380億円から350億円に修正しましたが、当社グループは、引き続き3期連続の最高益更新を目指すとともに、経営計画「Denka Value-Up」に基づく諸施策を、手を緩めることなく積極的に進めてまいります。

3. 参考数値・前提

(単位:億円)

	2019年度 第2四半期実績	2018年度 第2四半期実績	増 減
投 資			
設備投資	162	143	19
M & A 他	27	1	26
計	189	144	45
減価償却費	110	113	△ 3
研究開発費	73	78	△ 5
有利子負債残高	1,233	1,215	18

	2019年 通期予想	2018年 通期実績
	450	327
	450	1
	450	328
	230	229
	160	146
	1,200	1,121

	2019年度 第2四半期実績	2018年度 第2四半期実績
為替レート [円/\$]	109.2	109.5
国産ナフサ [円/kl]	42,900	50,550

4.セグメント別状況(前年同期比)

- ・エラストマー・機能樹脂部門は、スチレンモノマープラントの非定修年であったことに加え、デンカシンガポール社のスチレン系樹脂のспредは改善しましたが、クロロプレンゴムの販売数量が減少したことなどにより、減益となりました。
第3四半期以降も、クロロプレンゴムの販売数量は前年を下回る見通しであり、通期でも減益を見込みます。
- ・インフラ・ソーシャルソリューション部門は、製品の価格改定が進んだことなどにより増益となりました。
第3四半期以降も、価格改定が寄与し、通期でも増益を見込みます。
- ・電子・先端プロダクツ部門は、球状アルミナ、高純度導電性カーボンブラック等の車両電動化関連製品の販売が伸長したものの、生産体制強化に伴う固定費負担の増加に加え、電子部品・半導体関連分野向けの高機能フィルムや球状溶融シリカフィルターの販売が前年同期を下回り、減益となりました。
第3四半期以降は、車両電動化関連製品の販売増加が続くことに加え、半導体関連製品の需要も年明け以降には緩やかに回復すると想定していることから、通期では増益を見込みます。
- ・生活・環境プロダクツ部門は、プラスチック雨どいおよび工業用テープの販売は概ね前年同期並みとなりましたが、合繊かつら用原糸”トヨカロン”や、食品包材用シートおよびその加工品などの販売が前年同期を下回り、減益となりました。
第3四半期以降は工業用テープの販売は前年を上回る見込みですが、通期でも減益を見込みます。
- ・ライフイノベーション部門は、デンカ生研株式会社の検査試薬の販売が増えたことに加え、インフルエンザワクチンの出荷が早まったことなどから増益となりました。
通期でも、インフルエンザワクチンや検査試薬の販売が前年を上回る見通しであることから、増益を見込みます。

(単位:億円)

連結売上高・営業利益(実績・予想)		2019年度 第2四半期実績	2018年度 第2四半期実績	増 減	2019年 通期予想	2018年 通期実績
エラストマー・ 機能樹脂	売上高	787	890	△ 104	1,600	1,792
	営業利益	69	74	△ 6	125	142
インフラ・ソーシャル ソリューション	売上高	269	261	9	560	548
	営業利益	3	△ 1	4	10	△ 3
電子・先端 プロダクツ	売上高	335	329	6	710	671
	営業利益	58	59	△ 1	130	118
生活・環境 プロダクツ	売上高	186	196	△ 10	380	390
	営業利益	△ 2	2	△ 4	5	9
ライフ イノベーション	売上高	150	124	26	370	341
	営業利益	25	5	20	70	63
その他 消去差	売上高	192	183	9	380	388
	営業利益	2	7	△ 6	10	13
合 計	売上高	1,920	1,983	△ 64	4,000	4,131
	営業利益	153	146	7	350	342

連結売上高増減	売上高				
	2019年度 第2四半期実績	2018年度 第2四半期実績	増 減	販売価格差	数量差
エラストマー・機能樹脂	787	890	△ 104	△ 70	△ 34
インフラ・ソーシャルソリューション	269	261	9	11	△ 2
電子・先端プロダクツ	335	329	6	4	2
生活・環境プロダクツ	186	196	△ 10	△ 1	△ 9
ライフイノベーション	150	124	26	△ 2	27
そ の 他	192	183	9	-	9
合 計	1,920	1,983	△ 64	△ 59	△ 5

連結営業利益増減	営業利益					
	2019年度 第2四半期実績	2018年度 第2四半期実績	増 減	販売価格差	数量差	コスト差等
エラストマー・機能樹脂	69	74	△ 6	△ 70	△ 22	86
インフラ・ソーシャルソリューション	3	△ 1	4	11	△ 2	△ 5
電子・先端プロダクツ	58	59	△ 1	4	1	△ 7
生活・環境プロダクツ	△ 2	2	△ 4	△ 1	△ 4	1
ライフイノベーション	25	5	20	△ 2	19	3
そ の 他	2	7	△ 6	-	0	△ 6
合 計	153	146	7	△ 59	△ 6	73